日本における最初の私立幼稚園とその背景 (1)

――近藤はま(浜)と近藤幼稚園――

小林恵子

日本における最初の私立幼稚園は、いつ、誰が、どこで、どのような目的で創立したのだろうか。こんなことを今さらと思われる方があるかも知れないが、今日なお幾つかの疑問が残されたままになっている。その一つは文部省の教育統計で最初の私立幼稚園が明治十二年となっているが、この園はどこの幼稚園かという疑問である。この疑問は、すでに倉橋惣三・新庄よしこ共著の「日本幼稚園史」[1]に「私立幼稚園が明治十二年から出て来ているが園名は判然していない。」と記されており、この本の出版が昭和五年であったことを考えると私が問題としているこの疑問は長い歳月にわたってもちこされてきた疑問であったということができる。

こうした保育史の側面は今日までは資料が乏しいだけに最初に出版された文献がそのまま引用されて孫引されて、しばしば誤った記述がそのまま次の世代へと継承されるおそれをもっている。そこで私は最初の私立幼稚園に関する幾つかの疑問を考察し、これまでの資料や文献の誤りを少しでも正確なものに訂正できたらという願い

から、公的な資料や文献にあたり、関係のある場所や人を訪問し調査をすすめた。

さて、文部省の教育統計で明治十二年となっている最初の私立幼稚園を考えるとき、これではないかと思われてきたものに次の三園があげられる。

(A)近藤はま（浜）が開いた近藤幼稚園

(B)和歌山県にあったという稚児保育所

(C)明治十二年の年報に記されている桜井女学校附属幼稚園

文部省の教育統計

年度	園数		
	国立	公立	私立
明治9	1	0	0
10	1	0	0
11	1	0	0
12	1	2	1
13	1	3	1
14	1	5	1
15	1	5	1
16	1	4	7

以上、この三園について(A)(B)(C)の順序で考察をすすめていきたい。

(A)の近藤はまが東京の芝で近藤幼稚園を開いたという説は、石井研堂の書いた「明治事物起源」[2]によるもので「幼稚園の始」と題し次のように記されている。「市下私立幼稚園の始めは明治十二年中に女子師範学校の保姆、近藤はまが芝公園内に近藤幼稚園を開きたるを始めとす。」と。この記事は「日本幼稚園史」（前掲書二四頁）に掲載されたのを始めとして、辞典、保育文献、年表などに最初の私立幼稚園として掲載され現在に至っている。

しかし、はたして近藤幼稚園はあったのかどうか。この疑問を解くために近藤は一体どんな人だったのかを考察してみたい。公的資料からあきらかなことは近藤が東京女子師範学校附属幼稚園創設時の保姆で、松野クララ、豊田芙雄とともに日本で最初の保姆として草創期の保育界で活躍した人ということである。明治十年頃の実写図である「幼稚園に於ける鳩巣（家鳩）の遊戯」の絵

には和服姿の近藤の姿がみられる。髪のかんざしのさし方から独身であった近藤は、むかって手前の保姆であることもあきらかである。この絵は幼稚園百年の記念切手（昭和五三年発行）となり少しカットされて松野と近藤の姿がみられる。

幼稚園に於ける鳩巣（家鳩）の遊戯
（明治10年頃）大阪市立愛珠幼稚園蔵

ところで、これまで豊田のことは幾人かの方が詳細に研究調査されたのに対し近藤に関しては何一つなく氏素姓すら不明で晩年のこともわからないとはどういうことであろうか。東京都公文書館には次のような近藤の履歴書が残されているだけで他に履歴書がみいだせない。

近藤はま（浜）東京女子師範学校付属幼稚園保姆

園長兼保姆履歴書

和歌　村田春野就業

英学　ションシェームス就業

洋算　河井鏻蔵就業

漢籍　松山章就業

在就学仕候

明治八年十月

東京女子師範学校創設ヨリ舎長拝命

明治九年九月

東京女子師範学校附属幼稚園創設ヨリ幼稚園教師拝命

明治十四年十月

辞職仕候也

明治十七年九月

東京神田区神田松住町拾番地

東京府平民　近藤　浜　㊞

四十五年七ヶ月

この履歴書は、明治十七年に芝・麻布共立幼稚園設置に際し近藤が園長兼保姆として書類を東京府知事に提出したものである。[3] 簡単な履歴で詳細なことは不明であるが当時としてはかなり才媛で文学、音楽に素養のあった人と思われる。東京女子師範学校附属幼稚園で教材として使用した「保育唱歌」のなかには近藤の作詞・訳詞の唱歌があり、作曲もしていることが注目される。「筍」「造化ノ妙」「イロハ」「盲想遊戯」の四曲は近藤の作曲によるもので二十四名の雅楽課伶人たちに交って、ただ一人女性である保姆の作曲があることは興味深い。[4] このなかの「盲想遊戯」は訳詞が豊田芙雄であり、両者は保育実践の現場で園児と一緒に遊びながら作詞、作曲したものと考えられる。近藤の作詞には「造化ノ妙」「山時鳥」「春」「夏」「秋」「冬」「山家」があり、いずれも詞は文語体で曲は雅楽古来のうたいものと西洋唱歌の融和を計ったものであった。「保育唱歌」は明治十年十一月二七日皇太后、皇后を迎え幼稚園開業式を迎えるに先だって東京女子師範学校摂理、中村正直が式部寮へ依頼したのが始まりで三年以上もの年月をかけて百曲余に及ぶ「保育唱歌」が順次作曲された。その一曲に「君ヶ代」

のあったことなど、このあたりは芝祐泰著「保育並遊戯唱歌の撰譜」に詳しく記されている。[5] 当時は雅楽課伶人が保姆に教授し、次に保姆が幼児に歌を教えたもので、その苦労はなみ大抵のものではなかったようである。[6] 保姆が訳した歌詞が十三曲もあることは豊田、近藤が共に翻訳書だけでなく原本を読んでいたことも理解される。開園式に両陛下の御前で園児一同が「風車」を歌い保姆は箏・ピアノで合奏したようで「幼稚唱歌し保姆音楽を奏せしかば、園中にさんざめき渡りて面白かりければ、御気色もいとめでたかりき」と楽しかった様子が東京日日新聞に掲載されたとある。[7] 松野クララの弾くピアノと豊田、近藤の琴の合奏で園児が「風車」を歌った、[8] とは何と優雅なことか、保姆はこの日のためどれほどか労し園児たちに練習させたのであろう。

この他、近藤に関しフレーベルの恩物に使用した豆細工のことが「日本幼稚園史」記述されている。「豆細工はドイツから伝来したものは、竹を使はないで、細く削った木の箸の両端に大豆をつけてつぎ合せる仕組みであった。箸はかなり太いので、なかなか豆には通らないから、小刀でその両端を切り細く尖らせねばならない、豆細工の度に一々こんな手数をかけていたのではまことに不便で、年長の幼児も容易にこれはしかねたが、近藤浜という保姆が細く削った竹を思いついて、提灯屋から竹の屑を求めて来た、これに大豆の代りに、丸くて四方からさし易い豌豆を使うということを考案したので、これを実際にして見ると大にし易くて、以後は豆細工は改良した方法を用いることにしたのである。[9]」以上のことからも近藤がいかに教育熱心で創意工夫に富み進歩的だったかが推察される。

ところで近藤が開いた近藤幼稚園というのは本当にあったのだろうか。私は誰か近藤のことを知っている人はいないものかと彼女が住んでいたという神田松住町（現・千代田区外神田）に昔のことをよく知っている老人を数人訪ねたがわからずに終った。近藤は、その後、京橋区惣十郎町（現・銀座七丁目）に移転し、晩年は芝に住んでいたようである。「婦人と子ども」雑誌の第二巻（明

治・三四）第四号の会員名簿に芝区桜川町六（現・虎の門一丁目）とある。彼女が何歳まで生存していたかについては、お茶の水女子大学附属幼稚園発行による「年表・幼稚園百年史」に一九一二・四（明治・四五）死亡とある。この年月が正しければ彼女は一八四〇・二（天保十一）生れであるから七二歳まで生存していたことになる。[10]「婦人と子ども」誌の第六巻第六号の会報に明治四十年一月までの会費納入と名前がでており、この頃まで仕事をしていたのではないかと考えられる。したがって「日本幼児保育史」第一巻に「明治十九年八月四日、コレラで亡くなったが時に六五歳であった」とあるのは誤りで、この人は近藤真琴のことである。

近藤が十二年に近藤幼稚園を始めたかどうかについては幾つかの疑問点が考えられる。

(1)東京女子師範学校附属幼稚園の保姆を勤めながら別に新しく幼稚園を開き保育に当ることは可能だったかどうか。交通の便からみても神田と芝は離れており、当時は今日のように便利ではなかった。また、そのころ、幼稚園のことを学んだ保姆をみつけ雇って運営にあたることは可能であったか。

(2)明治十二年というのは「鹿児島幼稚園」創設のため豊田が一ヶ年余、鹿児島に出張（十二・二―十三・七）[11]して、保姆見習の横川楳子が十一年十二月から保姆として勤務している。しかし、おそらく豊田の留守中、最年長の近藤が日常保育のいっさいをとりしきっていたと考えられ、責任の多くは彼女に重くかかって多忙な年であったと考える。

(3)女子師範学校附属幼稚園で保育見習生を置くことになったのは明治十一年二月で、六月には「保姆練習科」が女子師範学校内に設置されている。これは十三年五月、校則の改正で廃止されるが、同年七月には十一名の卒業生をだしている。原田良、長竹国などで大阪、仙台、九州など諸地方に赴任して幼稚園の草分けとなった人が多い。豊田の留守中、この十一名の生徒を幼稚園の現場で実際に指導した人は近藤ではなかったろうか。創設時は近藤は「手技製作」を受持っていたようで、明治

十一年に大阪から保育見習の為に上京した氏原銀の記によると「入学後は実地保育、宮内省伶人先生の唱歌、松野クララ先生の保育法、豊田芙雄先生の幼稚園記並に保育法、近藤浜先生の手技製作等で、中で一番休みが多くて進まぬのは、クララ先生の保育の講義で、これは通訳付き講義で、此通訳には関監事が担当せらるるのですが、此講義の当日、クララ先生が出勤せられても、関先生欠勤の時には講義は出来ませず、又関先生が出勤せられましてもクララ先生の欠勤の日は休みとなるので此両先生の出勤が揃う事がなく、一週中一廻もない時があって、留学生の身として一番閉口いたしまして、二ヶ月が一ヶ月に相当する様なもので有りました。[12]」とある。関はこのころ病気がちで明治十二年十一月四日死去しており、豊田が出張中であったことを考えると、保姆練習科の十一名の学生は、近藤浜、横川楳子など幼稚園保姆によってフレーベルの幼稚園教育が実際に指導されたものと考えざるを得ない。したがって明治十二年というのは附属幼稚園における近藤の職務は多忙をきわめ、多事多難な年でもあったと考えられる。また、これに加えて、この頃はとりわけ参観者が多く東京内は勿論のこと、はるばる地方から参観にきて、来朝した外国人、或は高位高官の夫人などの折々の来園もあって[13]接待にも労をすることが多かったことと推察される。

(4)式部寮雅楽課の伶人たちによる「保育唱歌」については既に述べたが、唱歌作成は明治十年十一月、開園式に歌った「風車」「冬燕居」を始めとして次々と作られ十三年六月までの年月が記録に残っている。十二年は唱歌作成の真最中で近藤は雅楽課伶人たちと協力し撰譜に当っていて、近藤の作曲したものを伶人が訂正し、伶人たちが作った歌を実際保育にたずさわっている保姆に教え使ってみて訂正するなど両者の協力は欠くことのできないものであった。こうした苦心のあと始めて保育に用いたのでその努力は、単に幼稚園唱歌の先鞭をつけたばかりでなく広く学校における唱歌教育の端緒を開いたというべきである。横川楳子の履歴書に明治十一年から十六年迄の六ヶ年間に、「式部寮伶人東儀季若同林広継ニ

従ヒ、保育唱歌　催馬楽並ニ和琴等修業、又米国人メーソン氏及ヒ音楽取調所ニ於テ西洋唱歌並ニ風琴修業」[14]とあり附属幼稚園の保姆をしながら、今日では考えることのできないような修業をしていたことが理解される。近藤の場合も伶人たちに交って雅楽の修業は欠くことができぬものであり唱歌教授のため来園する式部寮伶人たちとの交渉や接待などもゆるがせにできないものではなかったかと考えられる。

(5)「明治事物起源」の著者、石井研堂（一八六五～一九四三）は児童雑誌「小国民」の編集者で「錦絵の彫と摺」など幾つかの書を著している。明治四〇年に初版を大正十五年に増訂版をだした「明治事物起源」は日本に始めて起った種々の事実を掲載し、その数千五百に及び政治、文学、教育など二二項目にわたっている。日本の西洋化の行程や世相、風俗史を知る上で意義のある本である。著者は、史家の顧みない市井の瑣事雑聞を網羅することを期して人力車、写真など当時世間に流行したものの起源を集録することに努め、資料の多くは様々な新聞、雑誌、詩歌などから得たものである。しかし、この書はその目的から風俗史としては優れてはいるが学問的な文献として全面的に信頼しえるかどうか疑がわしい。

(6)先にあげた「日本幼稚園史」では石井研堂の「幼稚園の始」を第一編に掲載し、十二年に近藤が始めたと記しながら、第四編では十二年の私立幼稚園の園名が判然としないとか「近藤はま女子が明治十四年芝公園で私立幼稚園を始め、後共立幼稚園と称したのが今日まで継続している」[15]と同じ本の中で違った説が記されていることである。これは著者の倉橋が石井の説を必らずしも信用していたわけでなく近藤が十四年に始めたというほうが倉橋自身の考えであったと思われる。十四年は近藤が女子師範を退職した年でありうることと考えられる。

(7)公文書館に明治十二年の私立幼稚園の設置願いがなく文部省年報、日記など公的な資料に記録が全くみいだせないことである。普通は履歴書など保存されているはずだと思うが私の調査したお茶の水女子大学や公文書館、国立公文書などにもなく今のところ、この十二年の

説を裏づける資料は皆無である。

以上のことから、十二年に芝にあったという近藤幼稚園を最初の私立幼稚園とする説は誤りであると考えられる。一つの推論であるが明治期は二二年を廿二年、廿二年などと書いており、近藤が二二年に近藤幼稚園保姆練習所の設置願を提出しているが、この記事が新聞などに記された折、石井は印刷のうすれなどから廿二を十二と読み違えたのではないか。いずれにせよ、十二年の説を裏づける資料はみいだせなかったのである。（つづく）

（国立音楽大学）

註

(1) 倉橋惣三、新庄よしこ共著「日本幼稚園史」臨川書店 昭・五 四二九頁

(2) 石井研堂著「明治事物起源」上巻 春陽堂 明・四〇

(3) 明治十七年八月―十一月 各種学校書類八 公文書館蔵

(4) 芝祐泰編「保育並遊戯唱歌の撰譜」昭・三十年 未発行 国立音楽大学図書館蔵

(5) 同右

(6) 「日本幼稚園史」（前掲書）二三一―二頁

(7) 同右 四二頁

(8) 文部省「教育雑誌」第五二号 明治十年十二月二五日発行「皇太宮 皇后宮 東京女子師範学行附属幼稚園行啓行事「次テ園児唱歌ヲ保姆奏楽ス 右箏ピアノ合奏 遊戯歌風車」

(9) 「日本幼稚園史」（前掲書）七七―七八頁

(10) 明治二一年各種学校八 東京府教育会付属幼稚園保姆講習所 教員履歴書 公文書館蔵

(11) 文部省「幼稚園教育九十年史」ひかりのくに 昭・四四 三九頁

(12) 「日本幼稚園史」（前掲書）一一九―一二〇頁

(13) 同右 一一六頁

(14) 横川楳子の履歴書 横川楳子女子関係資料 お茶の水女子大学女性文化資料館蔵

(15) 「日本幼稚園史」（前掲書）四二九頁

その他の参考資料

東京都「東京の幼稚園」都史紀要一四 昭・四一

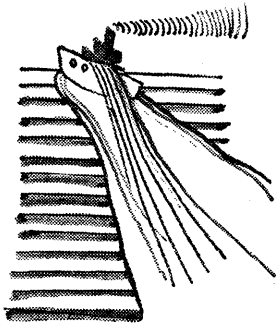
外山友子「幼稚園唱歌事始」東洋音楽研究　第四三号　昭・五三
藤田芙美子「保育唱歌研究」創立五十周年記念論文集　国立音楽大学　昭・五三
森銑三編「明治人物逸話辞典」上巻　東京堂出版　昭・四十
「明治文化」十七巻第一号　石井研堂翁追悼号　利根書房　昭・十九・一

資料提供

公文書館　国立公文書　お茶の水女子大学女性文化資料館

写真提供

お茶の水女子大学附属幼稚園



☆未熟児

水道の流しのところに、ちょっと大きななめくじがいたのを見つけて「なめくじがいた」と大騒ぎ。私も呼ばれて見にいき、仕末をしなければと思いながら、大きいので手を出すのにちょっととまどってしまう。

そのようすを見てK男が、「先生もこわいの？」「そうね、ちょっとさわるの　こわいみたいね」と私。そのとき積木であそんでいたIが聞きつけて、そばへ来て言う。

「なめくじなんかこわくないよ。平気、平気、未熟児だって大丈夫ってうちのママが言っていたよ。」

ちなみにIの家では二か月程前、予定より大分早く女の赤ちゃんが生まれたと聞いていました。　（K）